



ご利用にあたって

- 「安全情報」は医療・福祉関係の方に向けて発信したものです。一般の方に向けた内容ではございませんのでご注意ください。
- 内容は、いずれも発行日時点のものです。常に最新の情報をご確認ください。



安全情報N0.13「胃チューブの管理を安全に行うために」 に対して寄せられた質問にお答えします

全日本民医連医療安全委員会より安全情報NO.13「胃チューブの管理を安全に行うために」を発信しましたが、事業所から「胃液の吸引できない患者が多く、レントゲン撮影が頻回になってしまう」「1日3回注入する場合、深夜・準夜帯に注入時間がくる。できるだけ日勤帯に、といつても限界がある」などの質問がありました。委員会での検討結果を紹介します。

胃液吸引による確認ができない場合。

全くひけないのか、観察する。吸引手技の方法を医師と相談してください。

(たとえば、少量エアーを注入してからゆっくりと低圧で吸引してみるなど)

少量でも確認できれば、問題ないと思います。

したがってその都度、レントゲンの必要はなくなります。

1日3回で夜勤帯注入がきてしまうこと

夜勤は人が少ないと、心理的に確認にあせりが発生してしまうことが考えられます。

朝もきわめて日勤に近く人手が増える時間から開始。夕方も17時前に日勤者が確認して開始などの方策の検討をお願いします。

深夜準夜帯の連絡の体制上の問題について

おかしいと思ったら遠慮なく医師に報告してください。そして患者を搬送してレントゲンではなく、他の職種にも協力をもとめ、ポータブルによるレントゲン撮影で看護師が病棟を離れることのないようにすることの検討をお願いします。

その他

この安全情報をもとに、マニュアルを見直したり実際の方法を確認したりし、同じような事故をすべての民医連の事業所でおこさないために自分たちはどうするかを検討し医療の安全を推進することをのぞみます。